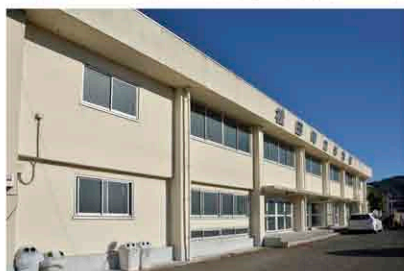


「令和五年田宮流講習会・審査会vol1」



令和五年十一月十九日田宮流居合術心剣放光会講習会・昇段審査が行われました。今回初参加の皆様
の感想を掲載させていただきます。今号は三富さんの記事になります。



朝夕の冷え込みが強くなり、冷たい空気が身を引き締めくれる令和5年11月19日。目の前
には河原一面に黄金色のススキが揺らめく松田町立体育館で令和5年田宮流居合術講習会及び昇
級審査が行われ、初めて参加させていただきました。

午前中は講習会が行われ、初心者の方たちにも分かりやすいように1本目から6本目までの型の解釈やポイントを教えていただきました。

仮想敵を実際に立てての練習は三宅さんがよく神明会の練習でも取り入れて下さっている練習方法のひとつですが、打太刀・仕太刀共に実際にやってみると打太刀の難しさが分かりました。そして型の意味、所作における注意点、残心の意味などが分かりやすく大変勉強になりました。また、宗家直々にアドバイスいただけたことは非常にありがたく貴重な体験でした。

講習会の最初に宗家が仰ってらした「決して驕らず、満足せず追求し続けること」「死ぬまでが修行であり終わりはない」という内容は特に心に残り、居合だけでなく今後の生き方として持ち続けたいと思いました。

午後からは午前中の講習の続きを少し行い、昇級審査となりました。

審査前の最終調整の練習では、道場に関係なく色々な先生にご指導いただけ、とっても暖かい流派であることが嬉しく感じました。審査では宗家にアドバイス頂いた「誇示することなく、少しゆっくり過ぎるかなと思うくらい丁寧に振る」を心に留め挑みました。そのお陰か、普段以上に肩肘の力を抜き実技ができたように思えます。

自分の実技が終わり、昇級昇段審査、全員演武では他の会の方々の型を拝見し、会によつての解釈の違いや重点の違いが垣間見れ勉強になりました。その中でも同会の先輩方の型は美しく、神明会の方向性が私にとっては合っていると認識でき、改めて入門できたことをありがたく思いました。

最後に、入門した時から色々ご指導いただいた清水先生、青山先輩、三宅先輩、吉村先輩、諸先輩方、誠にありがとうございました。結果はまだわかりませんが、これからも同期の仲間と切磋琢磨し稽古に励みたいと思います。今後とも変わらずのご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。